

平成30年度 第12回 役員会議事要旨

日 時 平成30年10月24日（水） 10時27分～11時56分

場 所 学長室

出席者 学長，後藤理事，寺本理事，和田理事，吉田理事

欠席者 兒玉理事

陪席者 佐々木監事，只木評価室長，山下附属病院長

1 審議事項

- (1) 平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）に対する意見の申立てについて
只木評価室長から，国立大学法人評価委員会から示された評価結果（原案）を評価室で分析検討した結果，「業務運営・財務内容の状況」に係る4項目の評価が全て「順調」となっており，課題として指摘されたこともないことから，字句の修正のみとし，意見の申立ては行わない旨の提案及び評価結果（原案）の詳細について説明があり，審議の結果，了承された。
- (2) 佐賀大学大学院医学系研究科規則の一部改正について
学長から，本件は役員会で協議し，教育研究評議会で審議した案件である旨説明があり，次いで，総務課長から，医学系研究科において連携大学院方式を採用することにより，好生館ライフサイエンス研究所の研究者が授業又は研究指導を行うことができる旨を規定するものである旨説明があり，審議の結果，了承された。
- (3) 平成30年人事院勧告への対応について
学長から，平成30年の人事院勧告を受け本学における給与改定の取扱いについて決定する旨説明があり，次いで，人事課長から，人事院勧告に準拠して改定する内容，影響額，契約職員等への適用時期及び給与改定のスケジュールについて説明があり，審議の結果，了承された。
なお，佐々木監事から，経費削減及び外部資金獲得についても学部長等に伝えるよう発言があった。

また、学長から、将来的には準拠が難しくなるので、国に原資を用意するよう国大協から言い続けたいといけないとの発言があった。

(4) 平成30年度経費削減計画の策定について

財務部長から、第3期中期計画について、光熱水等の使用量を平成27年度比3%削減する目標を掲げており、平成29年度の実績について、全般的に削減され目標値を達成しているが、附属病院において電気のピークカット時に発電機を稼働させたため重油の使用量が増加した旨、廃棄物量は建物の改修、センター廃止及び部屋の空け渡しなどにより影響を受ける旨、空調改修によりガスが削減される代わりに電気の使用量が増加するが金額的には削減となる旨説明があった。次いで、平成30年度の計画について、部局ごとに計画を立てている旨説明があり、審議の結果、了承された。

なお、佐々木監事から、定期試験を8月に実施するようになったが、試験中に節電の連絡があり冷房を切られることがあるとの情報提供があり、シミュレートして可能であれば、来年度から試験中の講義室は冷房を切らない工夫をするよう学長から指示があった。

(5) その他

特になし。

2 報告事項

(1) 附属病院経営状況について

山下医学部附属病院長から、平成30年度附属病院収支実績及び見込(～7月実績)、月別材料比率の推移、平成30年度附属病院の目標の達成状況等について報告があった。

なお、学長から、粗利の収支状況の差額について、差額を埋めていくプロセスを示して、目標値に近づいていることを見せるよう指示があった。

(2) 平成30年度佐賀大学チャレンジ支援プログラム(大型科研費獲得支援)について

寺本理事から、このプログラムの趣旨は科研費において基盤研究(C)から、より大型の(B)や(A)の獲得を目指す研究者の支援であり、前年度に(B)又は(A)を不採択になったが学振の評価がA(上位30%)である者が基盤研究(B)等を再度申請する場合に支援対象としており、今回対象者となった3名に、年度の残り期間等を考慮した結果、40万円又は20万円を配分することを決定した旨報告があった。

- (3) その他
特になし。

3 その他

総務課長から，平成30年度研究者別外部資金受入一覧について説明があり，次いで，学長から，THEランキングにおいてサイテーションのスコアが評価項目としてポイントがあるが，本学においてはサイテーションを直接判断し難いので，評価を受け外部資金を獲得した者は基本的にいい論文を出しているとの考えに基づいてよい研究者の分布を明確にし，執行部により研究者の顔が見える状況にしておくことが大事である旨，またこれらの研究者が引き抜きに合わないよう，どのようなインセンティブを与えるべきかなどを役員会で検討することも必要である旨説明があり，意見交換が行われた。

以 上